

はまなす句会（八月二十二日）（百三十六回）

ひぐらしの声にまぎれし独り言

圭二

ひぐらしの鳴けば三味弾く母を恋う

菊枝

寂しげに移ろい告ぐる夕ひぐらし

久子

蝉時雨今を生き切る背筋伸ぶ

玲子

秋の蝉力のかぎり鳴き交わす

則子